

第2回丹波市地域資源活用懇話会議事録

1. 日 時 令和4年7月26日（木） 15時から17時10分

2. 場 所 春日住民センター大会議室

3. 出席者

○懇親会委員（11名）

1号委員 関 美絵子

2号委員 藤井 和枝 竹内 真子 鴻谷 佳彦

3号委員 荻野 祐一

4号委員 田辺 真人 松原 慶明 大木 玲子

5号委員 濱田 亮光 植地 惇

6号委員 宇瀧 広子

○事務局（6名）

4. 開会

事務局：定刻になりましたので、ただ今から第2回丹波市地域資源活用懇話会を始めさせていただきます。お手元の資料の確認をお願いします。（事前送付分と当日配布分の資料確認）

5. 会長あいさつ

事務局：田辺会長から、一言ごあいさつを頂きたいと思います。

田辺会長：今回は初顔合わせで忌憚のないご意見がでましたが、今回いよいよ具体に話を進めていきたいと思いますのでご協力を賜りたい。

6. 協議事項

田辺会長：それでは、次第に沿って協議を行ないます。

（1）WEB アンケート調査の確定と実施について事務局から説明をお願いします。

事務局：資料8（1）WEB アンケート調査の確定と実施についての説明

田辺会長：資料8についてご質問やご意見ございませんか。

一項目目のアンケートの地域の範囲ですが、近畿エリアの1,000件にしたという事ですが、これについていかがでしょう。

～意見なし～

田辺会長：ご意見ないようですので、この範囲でいいという事と思います。二項目目の性別、年齢、居住地にご意見ありませんか。三番目ですが、まず観光だけではなく観光以外の事も、という事で頂いた意見が反映されていると思いますね。よろしいですか。

～委員、同意～

田辺会長：それでは五番目の丹波に来た移動手段、マイカーがほとんどですが、マイ

カー以外で来た人への質問をしてみてもどうか。

委員：移動手段の話がでて少し違うかも知れませんが、知り合いが孫を連れて発掘体験ができる元気村かみくげに問合せの電話をしたところ、最寄り駅を訪ねると下滝駅を言われた、そこから歩いて行けるか問い合わせたところ遠いと言われた。そこでタクシーがあるか尋ねると、タクシーは篠山口駅から乗って来てくださいと言われたらしい。篠山口からタクシーに乗るのは遠い。本人は分からないので篠山口からタクシーできたらいいわとなるが、私からしたら、何で下滝の駅から播丹交通の電話番号を教えてあげないのか。電車が到着する時間に駅に迎えにきてもらえるので、そのような案内ができないのか。その話を聞いて私が商工会の事務局に尋ねてみたら、担当の人が電話番号まで調べてパンフレットも届けてくれた。元気村の対応に悲しい気持ちになった。来られる人の気持ちになって訪問したいと思っていただけるような接客をして欲しい。

田辺会長：ホスピタリティの問題で、観光課の方でも市内の観光担当者の研修をする必要があります。今はアンケート調査の項目の審議なので、今の意見は大切に明記して、また検討する必要があります。それも含めて交通手段を、ほとんどが車で、それ以外にどういうものがあるか、くらいに聞く項目を考えてもらえたらと思います。

事務局：調査項目は11項目以内に収めなければならず、手段の7～8割が車でお越しになられると分かっておりましたので省きました。

田辺会長：分かりました。これ以外の時に調査して欲しい。六番目これもweb調査の条件の中でという事でしょうか。

事務局：そうです。また、何に対して満足度はいろいろな意味があり、詳細には質問の項目数も多くなると考え、省いています。

田辺会長：11項目の中で要らない物に気づかれた時には会議の中でおっしゃって下さい。では七番目の観光スポット、来訪された場所としてですが、技術的なウェブの事は分からないが、資料8の問6のことで、20の質問を1から6つの項目に分類して質問することはできますか。

コンサル：問いの狙いは何であるかで違う。自然カテゴリーの中から必ず選ぶのか、自然を問いにするかで違う。

田辺会長：分類名を答えてもらう必要はないと思います。アンケートを回答する側は1～20までになっていると纏まらないので、項目を6項目に分けて作るとは出来るのか聞きたい。

コンサル：1～8までの質問の頭に「自然」と言葉を入れる事は出来る。

田辺会長：入れてもらった方が答えやすいと思います。

コンサル：承知しました。カテゴリーはこれで良いですか？

田辺会長：いかがでしょう。分類はこのままで良いですか。

委員：問5、問6で、その他の後ろに具体的に記入できるようにして欲しい。

コンサル：出来ます。

田辺会長：ぜひやって頂きたい。他にご意見ありますか。

～意見なし～

田辺会長：なければ八番目の項目についてはいかがでしょう。

～意見なし～

田辺会長：意見なければ九番目ですが、これもよろしいですね。資料8の全体的になにかありますか。

～意見なし～

田辺会長：今回は無理だと思いますが、問10、どこの町でもそうなのですが、何が良かったかを選ばせるのは悪く言うと自己満足になります。大事なのは、来ていない人に来てもらう為のアンケートであれば、なぜ丹波に行かないかを聞く必要があります。交通の便が悪いのか。面白い所がないのか。情報が十分でないのか。何で来ないのか聞くと我々が持っていないものが答えに出てくる。次回ぜひ何故丹波市に来ないのかという項目を作って欲しい。アンケート調査はこれで進めて良いですか。

～委員、同意～

田辺会長：それでは資料11（2）後期ユニティプランの協議項目について事務局から説明をお願いします。

事務局：資料11の【観光】説明

田辺会長：資料11にご意見を頂きたいと思います。まずワークショップの開催を結果的には割愛するという事ですね。

事務局：ワークショップの開催はいわゆる地域おこし協力隊と協同ですするという形になっていたのですが、地域おこし協力隊との協同がどうなるか分からないので商品開発や販売促進を行う形に変更します。

田辺会長：その点についていかがでしょうか。特によろしいでしょうか。ワークショップで観光に来た人へのおもてなしの方法を研修し育成しなければならんと思います。地域おこし協力隊とのワークショップは無くなったが、丹波市全体のホスピタリティにはいろいろな形でトレーニングが出来る事を継続して欲しい。アの項目に関して他に意見はありますか。

～意見なし～

田辺会長：なければイへのご意見はありませんか。なんでも思う事を言ってください。

～意見なし～

田辺会長：数か月前に県民局当たりの大丹波連携の会合で行かせてもらいましたが、ここでもそういうスタンスが出てきています。これまで丹波地区と関わっ

て私自身が一番考えるのは広域連携の前に境域連携をするべきと思う。丹波市と丹波篠山市が対立していても観光客に何のメリットも無いのです。先週土曜日に兵庫県主催の兵庫五国フォーラムを丹波篠山市の田園ホールで開催されました。篠山市、県民局、兵庫県の方々に認識してもらう為、最初の質問に、丹波市から来た人を尋ねたら、挙手は1人だけでした。丹波で開催だから篠山からは来ない、篠山で開催だから丹波からは来ないではなく、相乗効果は観光にとっても大きい。五年前に県の観光課に福知山線沿いの城のスタンプラリーを提案しました。ところが兵庫県の観光課長は1年ごとに交代するので3度目の交代であきれて提案を止めました。途端に今、兵庫県西播地区で山城のスタンプ帳が若い女性の人気になっている。寺と神社の朱印が流行していて、お城もスタンプラリーが出来る。そのへの要素を集めてぜひ進めて頂けたらと思います。

委員：具体的な案として、例えば全国高校女子甲子園大会をやっているが、これも観光資源になると思っている。20年前もともと8校だったのが今は40何校になり、女子高校野球の聖地は丹波市です。去年の決勝戦は甲子園で、各スポーツ紙が一面を使って報じたくらいインパクトがある大会をしている。あそこに40何チーム来ていて、約800人、その保護者も来るかなりの規模の大会で、春日のインターをおりるはずですが、そこに歓迎や応援の横断幕を掲げるおもてなしが出来ていれば観光の誘客につながるはず。丹波市のホームページの表紙にさえ掲載されていないが、もっと盛り上がらないといけない。道の駅「丹波おばあちゃんの里」発信拠点にするとして、具体的な発信の内容をもう少し深くつつこんでいきましょう。何を発信するかですが、柏原におさんの森がありますが、あそこは観光資源になると思っている、あそこが江戸時代の文学の舞台になり、それを原作に映画化された。DVDをおばあちゃんの里で流してみるとか。こういう遺跡があると紹介して案内するといった具体的な案を盛り込んでほしい。

田辺会長：女子野球は、今始まって間がないが50年、100年経てば丹波の球場が甲子園に並ぶかもしれない。持続可能という方向からしても女性の活動に着目する事は大事だ。おばあちゃんの里に大きなスクリーンがあれば、女子野球の名場面を流すとか、バスで来た選手や、その家族が見れば丹波市が応援してくれていると感じるでしょう。この指針の言葉もそうですが、具体的なポイントも考えてもらったら指摘して下さい。次はウについて。ニューツーリズムは、DMOもそうですが、流行り言葉に左右され過ぎた感があり修正するのは大事な事だと思う。これでよろしいですね。それと紙媒体を出来るだけ節約してIT、SNSに移す。これも反対の人はいないと思います。それから発信で、多言語での情報発信、具体的にはどのような言語

を考えていますか。

事務局：パンフレットとしては、英語と、中国語全般と、香港で使われている言語の二種類の三種類の言語になります。Saturday Tambaは自動翻訳で英語と中国語になっています。

田辺会長：コロナ前に英語圏の人は年間どのくらい訪問ありましたか。

事務局：情報が手元にないのですが、実感ではほとんど無いと思う。

田辺会長：こういう時はマーケティングして、訪問の多い国の言葉にするものだと思います。国際交流といえば英語だと思っている人がいますが、今回は言葉ではなく文字で、中国が使っている簡体字と、台湾が使っている繁体字とのパンフレットを作ったという事なので言葉ではなく字体の話ですね。インバウンドもそうですが、世の中が言っているから国際化しなければという考えではなく、観光客の事を考えて作らなければ無駄になります。具体的な根拠に基づいた情報化、国際化の必要があるんです。

カの部分の、観光資源の整備・拡充、これは観光情報の発信の中心を丹波から、おばあちゃんの里に移した。前回の懇話会の要望が実現したものでありがたいです。水分かれフィールドミュージアムを入れる。観光コンシェルジュの充実。委員の話のような事に丁寧に対応する必要があると思う。これに意見、質問はありますか。

委員：必要な施策はプランを全体的に決めて取り組むのか、それともここではプランを考える必要がないのか。いろいろな会議に出ているが、方向性の素晴らしい意見は出るが、どれが具体化されて地域が変わったかが見えづらい。具体的な施策を挙げた方が実現可能ではないかと思います。

田辺会長：この会で言った発言は、ある程度かなりの割合で丹波市としては実現に努めてもらえますね。その上で、具体的な意見を出してもいいでしょうか、という事ですが、いかがでしょう。

事務局：具体的な意見が実現できるかどうかは私からは言えないところもあるのですが、ある程度、具体的に出してもらえたら良いと思うし、前回、観光関係に指標をあまり使っていなかったと思うので、今後、具体化する時に指標についても協議してもらいたいと思う。

田辺会長：実現可能な指標も考える。という事なので実現に努力して頂けると思う。道の駅丹波おばあちゃんの里のことで、この間、駅長さんとも話をする機会があったのですが、道の駅の名称が「おばあちゃんの里」でいいだろうか。感覚的にはノスタルジックに故郷のおばあちゃんと思うだろうが丹波市の固定観念かもしれません。日本全体で核家族化が進むと思われていたのが、核家族化が1985年で終わりました。単独世代（一人暮らし）の時代になり、おばあちゃんの印象が薄い世代が訪問したいと思うかどうか。田

舎の人にきてもらうのではなく、都会の人に来てもらうために考える必要がある。おばあちゃんの里で売れている部分もあるので、副題で都会の若手の人が魅力を感じてもらえるニックネームを考える必要があると思う。境域連携で思ったのは、日本中の庭園愛好家が注目する庭が丹波市にある。石像寺の四神の庭がある。丹波篠山市との境域連携の象徴として、重森三玲の庭を巡る観光の売り出しをお願いしたい。

委員：県民局の恐竜関係の会議でも思ったのが、恐竜の篠山層群が丹波篠山市もあるが、丹波市も丹波篠山市も、恐竜のことをもっと勉強して売り出すべきだ。重森三玲の庭は、丹波篠山市にもありますが、丹波市が度量を見せて、丹波篠山市と一緒にやろうと言う度量をみせる必要があると思う。

田辺会長：県民局は両地域がそれほど角を突き合わせているとは思っていないかもしれませんが、かなり切実です。県民局が仲良くなる音頭をとられても良いように思います。おばあちゃんの里の観光情報センターが一番奥になっている。駐車場に停めて買物してトイレに行っても、観光案内所には行き着きません。少なくともこの奥に観光案内所があるという標識くらいはつくべきだと感じた。他にみなさんがお気づきになった事はありませんか。

委員：観光案内所は、大変良いものが出来たと思うが場所が、奥なので勿体ないと感じる。コンシェルジュは、おもてなしの心で、あそこにこられる方に積極的に案内をするなどの、おもてなしをしてもらえたらさらに良くなると思う。

田辺会長：観光発信、観光コンシェルジュの充実ですね。おばあちゃんの里の売り場の角に教育委員会と協力して展示コーナーをつくっています。文化財コーナーを充実させて車を止める人の楽しみの一つにさせて欲しい。DMOに関しては言葉をカットする事で充分だと思います。観光に関してよろしければ、商工業について説明をお願いします。

事務局：資料 11 の【商工業】説明

田辺会長：ただいまの説明にご意見、ご質問はありますか。

委員：実現不可能と思いながら提案しますが、柏原藩校の崇廣館が解体されて眠っているが、貴重な文化遺産なので復元して欲しい。丹波市出身の植物学者、岩槻邦男さんから復元の話があれば積極的に協力すると手紙をいただいている事をお伝えしておきます。人材求人フェアは丹波市と丹波篠山市の地域でされているが、県境を超えてもいいのではないかと。職を求める側からは同じことで、福知山の企業が一緒にやればよい。

田辺会長：他になにかありませんか。

委員：仕事に関してワーケーション、リモートワークが急速に進んでいて、淡路にパソナが入ってきていますが、ここの計画に入ったらいいかと思う。ま

た、芸術家の方も多く、盆栽の仕事をしているような芸術系の方が子供の為に移住して、雇用と絡めてもらったらさらに魅力が出て良いと思う。

田辺会長：若い人の発想、視点は、従来ではピックアップしきれないものがありますね。今のようなご意見をお願いします。

委員：ワーク・ライフ・バランスの推進は、丹波で働いている人のワーク・ライフ・バランスを上げていくのが中心だと思うが、丹波に移住すればワーク・ライフ・バランスが実現できるというPRの方法があると思います。特に青垣や山南地域は過疎化地域に指定されているところで、若い一世帯が入れば地域にとって大きい。これから来たいと思っている人向けのPRを盛り込んでいけば、より良い計画になるのではないかとと思う。

田辺会長：若い人の意見を参考にしてもらったと思います。

委員：観光を広い意味で考えて行きたいと思う。関係人口をという中で、丹波市のふるさと住民登録がある。800人ほど加入しているようだが、定期的なメルマガの発信をされていて、丹波市内で使える商品券を贈ったりしている。その先に移住があったり、商工業の人材不足も関係してくる。観光課と住民登録をしている総合政策課が一連の流れを連携してやっていく必要がある。観光情報センターは観光戦略室が担当しているので意見が欲しい。観光情報センターの中でも関係人口や移住について説明して、観光客が気に入ってもらえれば、その場で登録してもらえると良い。そういう視点も大事だと思います。

田辺会長：市役所でも指針や方向性を打ち出して、各市内の拠点で具体的に実行するのは大事だと思います。

委員：コミュニティ、ローカルな場所で活動している人とソフトの部分で繋がっていけるような仕組み、おばあちゃんの里から観光が広がっていくようなイメージの施策が具体的に出来たら良いと思った。商工会に入っていますが、起業の相談は1,000件以上ある中で、若い人が起業して丹波で働くのは少ない印象を受けている。地域の環境を盛り上げるには、地域の方が地域の為に懸命に活動しているのが、外の人に見えて丹波を好きになってもらうのが良いと思っているのだが、若い人が地域で活躍する為にどうしたらよいかの法方が出たら良いと思った。

田辺会長：人と人を結びつける具体的なアイデアがあれば市役所に伝えて下さい。

委員：若い人が起業したいといわれるときに、情報交換の場となりうる一例として県民局でアメリカのシリコンバレーにかけて「シリ丹バレー推進協議会」という組織を、今年の2月に立ち上げた。

また、移住者が増えているが、少し前なら移住はリタイアして田舎暮らしを始めるのが多かったようだが、今は若い世代が自然の多い地域で子育て

をしたいという希望もあるように聞いている。そういう世代の場合、収入面、働く場所が一番、気になると思うので移住者の雇用、起業が大事だと思う。

田辺会長：副会長さんいかがですか。

関副会長：私が移住者で、私の友達が遊びに行きたい場合、どこに観光に行こうかと考えた時に、色々なところに情報があるが、それぞれ見にいかないといけない。また、今日やっているのかやっていないのか。例えば丹波市のカレンダーを見たら、今日は何処で何をやっているというのがひと目で分かるもの情報がパンフレットを止めてＩＴで詳細に分かるよう、そこに突出してみてもどうかと思いました。

田辺会長：情報は大事ですね。世の中では紙媒体を止めなければ仕方ないし、若い人が見てくれる方法を探る必要があります。都市部では学校の先生が、ＩＴ化しながらペーパーを捨てない業務状況、保護者のモンスター化によって仕事に困っている。転勤希望の先生方は子供を育てている人も多いので、丹波市で良い教育が出来ていると知れば、保護者も目を向ける可能性がある。ワークスタイルの改革面で丹波市に考えていただきたいです。遠距離で兵庫県は都市部もあり、県内の移動距離で従来と逆の事も出てくるかもしれません。いろいろな可能性のある町だと思うので、若い人の意見を参考にしながら具体的な方向を見て頂き本日の会を終了します。いろいろなご意見をありがとうございました。

7. 次回懇話会

事務局：本日ご協議いただいた内容については、まだまだ色々な意見があるかと思いますが、第１回議事録の内容確認と合わせご意見を８月１２日までいただき、集約したもので次回の会議をさせていただきたいと思います。

次回の懇話会開催日ですが、８月２４日の９時からでご予約ください。後日開催通知をさせていただきます。

8. 閉会

田辺会長：それでは閉会いたします。次回もよろしくお願いいたします。